

## 第12期Bコース（カナダ オンタリオ州）出発レポート

### □ 留学に向けて出発

令和6年8月26日（月）、第12期Bコース研修生がカナダ・オンタリオ州での留学に出発しました。成田空港では、東京都教職員研修センターの小野隆一教育開発課長から「次世代リーダー育成道場の一員であることを心にとめながら、様々なことに果敢に挑戦すること」など、今後の留学生活に向けた励ましのメッセージが送られました。研修生たちは多くの保護者の温かい見送りを受け、期待を胸にトロントへ出発しました。

トロント・ピアソン空港到着後の入国審査では時間がかかりましたが、全員無事に入国審査を終えることができました。入国審査を終えた後、研修生たちは「最初は何を質問されるか心配で緊張したけど、英語で間違えずに答えられました。」と笑顔を見せていました。

入国審査の後は、バスで到着オリエンテーション会場となるホテルに移動しました。ホテルでのbuffet形式の食事をとりながら、リラックスして研修生同士で話し合い、絆を深めることができました。

宿泊先では、留学生活でお世話になるバイリンガルカウンセラーに温かく迎えていただきました。約12時間にも及ぶ長時間のフライト後にもかかわらず、翌日からのオリエンテーションの流れなどの説明をしっかりとメモを取っていました。



<小野教育開発課長からの激励>



<トロント・ピアソン空港での集合写真>



<食事の様子①>



<食事の様子②>

## □ 到着オリエンテーション

トロント到着 2 日目からオリエンテーションが開始されました。現地スタッフの方からアクティビティを通じてコミュニケーションの大切さを確認した後、現地校での生活やホームステイ先での過ごし方、留学中の規則や緊急時の連絡先などについて説明を受けました。これから始まる留学生活に向けて、ほどよい緊張感を持って臨むことができました。



＜オリエンテーションの様子①＞

(コミュニケーションの大切さについて)



＜オリエンテーションの様子②＞

(ホストファミリーとの会話についてのロールプレイ)

トロント到着 3 日目のオリエンテーションの後、研修生たちは留学を終えたときの自分を想像し、どのような自分になりたいかを一言ずつ発表しました。「積極的にポジティブにたくさんの新しいことに挑戦する」、「英語だけでなくフランス語のクラスも受講して、フランス語も話せるようになる」、「次代のリーダーとして、様々な世界問題を解決できるように知識を広げる」など、将来の理想の自分に向けた抱負を述べていました。それぞれが目標を持って決意表明をした後、現地スタッフから激励の言葉をいただきました。



＜トロント市庁舎前での集合写真＞

## □ ホストファミリーとの対面

オリエンテーション終了後、研修生たちは留学生活への期待を胸に、ホストファミリーとの対面場所である①トリリアム（Trillium）、ノースベイ（North Bay）及びサドバリー（Sudbury）方面、②ブロックビル（Brockville）方面、③エイボン（Avon）方面の3台のバスに分かれてトロントを出発しました。

初めてカナダに来た緊張や約12時間にも及ぶフライトの疲労も積み重なっていたと思います。しかし、待ち合わせ場所に迎えに来たホストファミリーを見ると、研修生たちはバスから元気よく飛び出し、すぐに笑顔で握手やハグを交わし、自己紹介を行っていました。

研修生たちは、令和7年6月末までの11か月間、ホームステイをしながら現地校に通い、日本ではなかなか味わえない体験を積み重ねます。自然豊かなカナダの環境の中で日本からの「大使」として生活し、リーダーシップやコミュニケーション能力、物事を多角的に分析する能力など、様々な力を身に付けていきます。日本では疑問に思わなかった出来事も英語で表現するにはどうしたらよいか日々考え、工夫し、自分のボキャブラリーを駆使してコミュニケーションを深めていきます。

今まで育ってきた環境と温かく見守ってくれた日本の家族から離れ、言葉も文化も習慣も違う海外の地で新しい発見や体験をするとともに、様々な戸惑いや困難に直面することでしょう。その戸惑いや困難な局面で、自分の考えや感覚との違いをどのように受け止め、向き合い、対応し、乗り越えていくかを考えることが留学です。次世代リーダー育成道場に入校したときの気持ちと留学に対する熱い想いを忘れずに、自分を磨いていってもらいたいと強く願います。

成長した研修生たちと再会できるのを心待ちにしています。



<ホストファミリーとの対面の様子①> <ホストファミリーとの対面の様子②>



<ホストファミリー宅での様子>